

第3学年 保護者の皆様

4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果ができましたので、その結果に基づき、本校の教育課題を明らかにし、学力向上に向けた今後の取組等について、次の資料にまとめましたのでご一読ください。

- ◆『我が校の強み弱み分析・評価シート』（表面）：本校生徒の強み・弱みおよび現状等についての分析結果
- ◆『我が校の学ぶ力向上策』（裏面）：今回の学力調査の結果分析に基づく、学力向上に向けた授業改善等、本校が取り組む具体的な内容

なお、分析結果については全教員が共通理解し、学力向上策を見直し、授業改善策等、新たな取組を推進していきたいと考えております。保護者の皆様もご一読いただき、ご理解ご協力をお願いします。

【平成28年度「全国学力・学習状況調査」分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立粟津中学校

【結果について】

《概要》 国語A・Bの正答率は、ともに全国平均並みだが、数学A・Bは、どちらも全国平均を上回っている。また、文章で答える・説明する問題にも最後まで取り組み、各問いの無答率は昨年より低くなっている。特に数学では、全国比においても非常に低い。しかし、ここ数年、学力の定着状況に二極化傾向が見られるのは、本校の課題である。

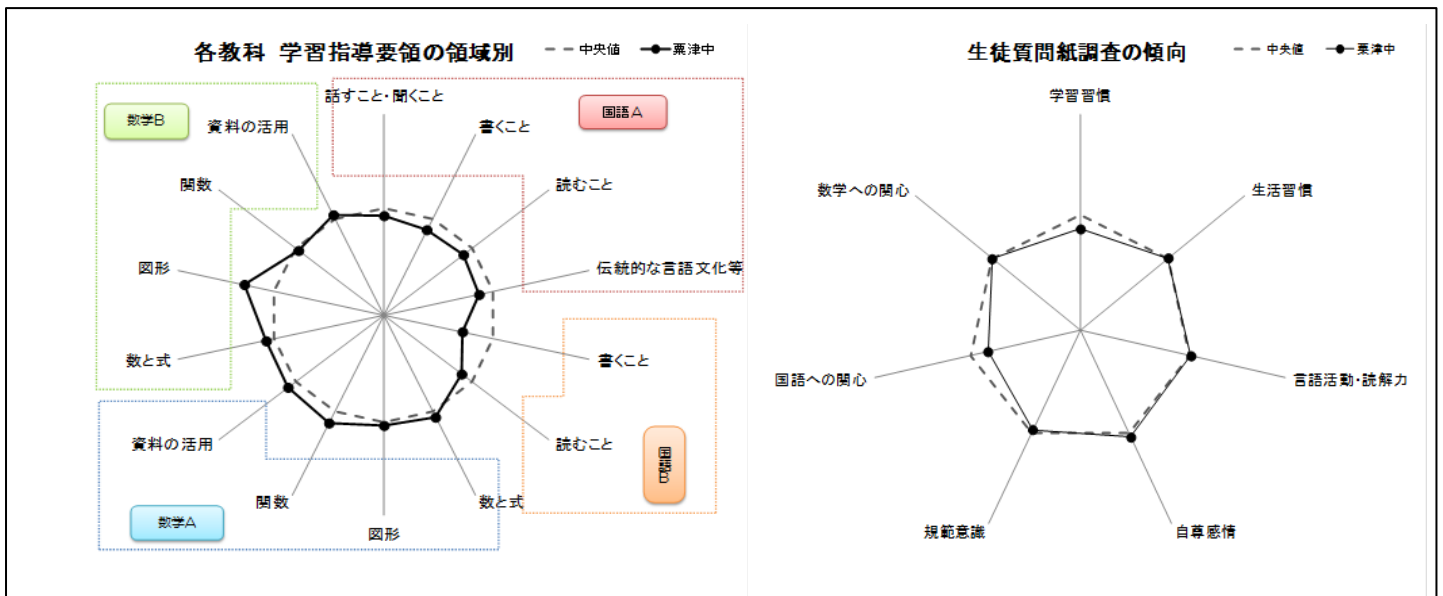
《強み・弱み》

国語では、勉強の大切さ・必要性を感じてはいるものの、苦手意識を持つ生徒は多い。一方、数学では、学習の意義・必要性に対する意識や学習理解度の高い生徒が多く、学習意欲も高くなっている。

- * 国語：「話すこと・聞くこと」の正答率が高いが、「漢字の読み書き」は低く、また文章を書くことに対する苦手意識を持つ生徒は多く、「書く能力」に弱みが見られる。
- * 数学：「数と式」・「図形」の正答率が高いが、「関数」が少し低く、無答率もやや高い傾向が見られる。また、「数学的な見方や考え方」の数値が高く、記述式の問題を得意とする生徒も多い。

◇ 強み・弱みレーダーチャート ◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を要する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

本校では、「学びとる・思いやる・やり抜く」生徒の育成を学校目標に掲げ、生徒は、日々の教育活動を通し、集団生活の中で達成感・成就感等を感じ、自尊感情を高めている。そのため、難しいことにも失敗を恐れず挑戦する気概に富んだ生徒が多く見られる。また、学習面では「学び合い学習」11年目を迎え、「授業での生徒間同士の話し合い活動」や「分からないことは友だちに尋ねる」等の評価が高く、その成果は着実に定着してきている。その一方で、学力定着状況や意欲に二極化傾向が依然として見られることから、基礎・基本の定着に向け、教育のユニバーサルデザインの推進に努め、誰もが分かる魅力ある授業づくりや一人ひとりのよさを認めながら、目標に向かって努力する生徒の育成、学びの質的向上により一層努める必要があると考える。